『まこちゃんとコトバロボ』をよんで

金田小学校　一年　生田　蒼大

ぼくは、ロボットがだいすきだ。なぜならかっこよくてかしこいから。ひょうしにかかれたロボットにひかれて、このほんをよんでみようとおもった。

まこちゃんがうそをついたせいでよみかきただしせんせいに、コトバロボがかいたいされそうになるばめんが、いんしょうてきだった。

じつは、ぼくもまこちゃんみたいにうそをついたことがある。しゅくだいをしてないのに、ともだちとあそびたいから、おかあさんに「しゅくだいおわってる。」とうそをついた。うそをついたらそのときはいいけどあとでモヤモヤしたきもちになった。

まこちゃんはおかあさんに、コトバロボにしゅくだいのこたえをおしえてもらっていたことをしょうじきにはなした。だからよみかきただしせんせいからコトバロボをとられないように、まもってくれた。ぼくも、おかあさんには、いつもみかたになってほしいから、うそをつくのはやめようとおもった。

コトバロボのめがカメラになっているとしったとき、こわいというきもちになった。

このほんをよんでかんじたことが四つある。一つめは、ほんとうのともだちになれたら、うれしいきもちになるということ。

二つめは、ともだちになれるのは、にんげんだけじゃないということ。

三つめは、しゅくだいをかしこいひとに、こたえだけおしえてもらうのはよくないということ。

四つめは、うそをついたらじぶんのきもちがくらくなるということ。

これからは、うそをつかないで、いろんなひとや、ものとほんとうのともだちになれたらうれしいなとおもう。ぼくのおばあちゃんもロボットかってくれないかなぁ。

『りんごかもしれない』をよんで

守口小学校　一年　山下　穂乃果

このほんは、ひとつのりんごにたくさんの○○かもしれないがあって、え？そんなこともあるかも？って、わくわくおもしろいきもちになれるほんです。ほんやさんでみたときに、ほいくえんにおいてあったことをおもいだして、なつかしいきもちになったのでかってもらいました。

「そだてるとおおきないえになるのかもしれない」のところでは、わたしもりんごをそだててみたいとおもいました。わたしはりんごがすきでまいあさたべているので、りんごのおうちにすんでみたいなぁとかんがえていたら、わくわくしたきもちになりました。

よんでいていちばんかんがえたのは「こころがあるのかもしれない」のところです。「かなしくなるとしろくなるのかもしれない」とかいてありました。わたしはいままで、たべものにきもちがあるかどうかをかんがえたことがなかったけれど、もしきもちがあったらたべるときにはりんごがかなしくならないようにかんしゃをつたえてあげないといけないとおもいました。

このほんをよむまでは、いつもごはんをたべるまえには「いただきます」とあいさつをするけれど、なんとなくでいっていました。でもよみおわってからは、たべものにもきもちがあるのかもしれないし、そだててくれたり、りょうりをつくってくれたひとにも「つくってくれてありがとう」って、かんしゃのきもちをこめて「いただきます」をいわないといけないなとおもいました。これからは、いろいろなことに「○○かもしれない」とそうぞうをしてみたいです。